

議会だより

2004

12月定例会

H17. 2. 1 発行

かみかつ

豊かで 住みよい 町づくり

VoL.16

発行／上勝町議会 〒771-4501 徳島県勝浦郡上勝町福原 ☎08854(6)0111 編集／議会広報調査特別委員会



響け!!活性化交響曲
棚田の声



目次

- 12月定例会2 ～ 3
- 一般質問4 ～ 9
- 議員研修報告10～12
- 議会の動き13
- 写真で紹介まちのようす・編集後記.....14

平成十六年 上勝町議会

第6回臨時会

会期 一日
開会 平成十六年十月二十日

任期満了に伴う上勝町教育委員会委員に高橋信幸氏を再任することに同意しました。

第7回定例会

会期 十二日
開会 平成十六年十二月十日
閉会 平成十六年十二月二十一日

制定

上勝町ごみゼロ推進基金条例

十二月定例会は十日に開会、笠松町長より提案理由説明の後、上勝町月ヶ谷温泉交流施設の設置及び管理に関する条例の制定について提案され、同案の修正案も明本議員より提案、採決の結果、原案を可決しました。

上勝町保養センターの設置及び使用料条例の廃止に伴う改正条例が提案され、可決。上勝町農業者等健康増進施設設置条例の一部を改正する条例の他改正条例一件、平成十六年度一般および特別会計補正予算二件が提案されました。

十七日に、上勝町ごみゼロ（ゼロ・ウェイスト）推進基金条例の制定および上勝町過疎地域自立促進計画（後期）の策定が追加提案され、初日提案の改正条例二件が可決。平成十六年度一般会計補正予算については、明本議員より修正案が提案され、採決の結果、原案を可決しました。特別会計補正予算二件および陳情一件を可決、採択し、三議員がそれぞれ町政について一般質問を行いました。二十一日も三議員よりそれぞれ町政について一般質問が行われ、二日目提案の制定条例については、明本議員より修正案が提案され、採決の結果、原案を可決しました。上勝町過疎地域自立促進計画（後期）の策定、上勝町月ヶ谷温泉交流施設の指定管理者の指定について可決。工事変更請負契約の締結については、討論の



次世代への贈り物

制定条例

上勝町月ヶ谷温泉交流施設の設置及び管理に関する条例

上勝町ごみゼロ（ゼロ・ウェイスト）推進基金条例

改正条例

上勝町保養センターの設置及び使用料条例の廃止に伴う改正条例

上勝町農業者等健康増進施設設置条例の一部を改正する条例

上勝町火災予防条例の一部を改正する条例

補正予算等

平成十六年度上勝町一般会計補正予算（補正第四号）

補正額

二億三百九十三万六千円追加
歳入：災害復旧費等国庫・県補助金、町債等

歳出：公共土木施設等災害復旧費、出資金、備品購入費等

物品購入契約の締結

○月ヶ谷温泉交流施設POS導入事業で、POS器械一式を九百九十七万五千円で購入。
○へき地児童生徒援助費等補助金スクールバス購入事業で、二十九人乗り一台、約七百七十万二千円で購入。

上勝町過疎地域自立促進計画（後期）の策定

○上勝町過疎地域自立促進計画（後期：平成十七年度～二十一年度）が策定され可決。

上勝町月ヶ谷温泉交流施設の指定管理者の指定

○株かみかついっきゅうを指定。
上勝町選挙管理委員四名及び同補充員四名の当選者氏名は町広報二月号をご覧下さい。

意見書等

人権侵害の救済を確立する「人権擁護法」の早急な制定を求める意見書（採択）

請願

すべての国民が安心して暮らせる年金制度確立のために年金「改革」法の実施を中止することを求める請願（採択）

陳情

勝浦高等学校の存続を求める陳情（採択）

人権擁護委員推薦に意見を求めること（敬称略）



上勝町大字正木 石川 誠一郎 (63歳)

推薦に同意しました。

結果可決。物品購入契約の締結二件が提案され可決（内一件は討論）。人権擁護委員の推薦については、推薦を可とし、上勝町選挙管理委員及び同補充員の選挙を行い、また人権侵害の救済を確立する「人権擁護法」の早急な制定を求める意見書については、討論の結果採択、請願一件を採択し閉会しました。



一般質問



山崎 茂 議員

四月の任期満了に伴う、町長選挙について

問 町長は二期目に向けて、出馬されるか。

答 町長 出馬に向けて検討する。

問 一期四年を振り返り成果と反省点は。

答 町長 成果は、学童保育の開設、傍示の住宅建設で人口の増加、高校生の勝浦高校まで無料送迎、ごみゼロ・ウェイスト宣言で、本町のごみ処理が情報発信され視察者の急増と交流人口の増加、有償ボランティア輸送事業など。反省点は、森林農地適正管理土確保育成事業が軌道にのせられなかったこと、合併問題、三位一体改革等で十分な成果が上げられなかった。

ゼロ・ウェイストアカデミーについて

代替バスの運行について

問 運行に当たって、問題はなかったか。

答 町長 運行ダイヤ、横瀬（西）乗り継ぎ所、利用料金、人材不足等々。利用状況と評価はどうか。

問 町長 利用状況は予定どおり。評価については、診療所、老人ホームへ行くのが便利になった。高等学校への保護者負担がへって良かったと間接的に言っている。

問 ゼロ・ウェイストについて

答 町長 宣言以降どのような取り組みをされてきたか。

答 まちづくり推進課長 住民には宣言主旨の周知、資源回収に関する法律（仮称）の制定について、知事、小池環境大臣に要望書の提出、NPO法人設立の準備、環境と経済の好循環モデルのまち事業が、環境省で認められた。NPO法人設立はいつ頃か。

問 まちづくり推進課長 任意団体で発足しており、三月末の登記を予定している。

答 NPO法人の設立にあたっての運営資金は。町長 企業等へ直接お願いし基金確保に努める。

問 まちづくり推進課長 会費、事業収入、補助金、委託金、基金からの繰り入れ金を予定。

答 まちづくり推進課長 任意団体で発足しており、三月末の登記を予定している。

問 NPO法人にいつ頃委託されるか。

答 まちづくり推進課長 四月委託で調整している。

問 NPO法人委託によって、ごみ行政が、どのように変わるか。

答 まちづくり推進課長 行政とNPO法人のパートナーシップの確立によって、住民にとっては、身近な施設運営が、可能になると考えている。

問 委託によって、現担当職員の配置は。

答 まちづくり推進課長 町職員は引き上げる。

問 町内ごみの不法投棄回収は、委託後は法人の手でされるのか。

答 まちづくり推進課長 直接取り除くことにはならない。ボランティアとか、いろんな方々の中で、取組が拡大されるのではないかと。

通信機器の整備について

問 町内には、携帯電話の未受発信、電波の弱い

地域が多くある。通信アンテナ等整備し、解消に努めてはどうか。

答 町長 NTTドコモのフォーマサービスの提供設備が、福原平間から中山に掛けての山頂に、来年か再来年に実施計画中で、また勝浦町との町界付近で、電波の改善対策をする方向で調査検討中であるので、これにひきかけて、未受発信ができない地域を整備していきたいと考えている。



NPO法人発起人会



明本 恵一 議員

町村合併問題

問 町長はこの町を「世界の素晴らしい贈り物」にする公約で町長になった。実現の見通しは。また上勝町の未来像は。

答 町長 公約実現はむずかしくなった。財政難をどう切り抜けるかだ。未来像は農林業が成り立ち、経済が安定し、若者と高齢者が生きいきと働き暮らせる魅力的な農山村だ。

第三セクター問題

問 上勝バイオ減資（一億八千万円）は累積赤字の穴埋めに使われる。吉成社長就任後「十五年間で赤字解消」の約束を反故にする。一

町の未来と町長公約

方がかみかついつきゅうの増資（五千万円）はいずれ町財政の圧迫となる。

答 町長 バイオの減資は外形標準課税四百万円の節税策だ。今の株は値うち

がない。一株五万円を一万五千円にする。その差益で欠損金を穴埋めする。

問 かみかついつきゅう増資五千万円のうち三千八十万円を町が引受ける。温泉再開に向けての資本だ。

問 月ヶ谷温泉オープンで町民にどんなサービス向上があるのか。黒字になるのか。

答 町長 家族風呂、送迎つきの入浴など検討中だ。休業中の赤字は四千七百万円だが三年で黒字にする。

若者定住問題

問 かみかついつきゅうのバス

地域が多くある。通信アンテナ等整備し、解消に努めてはどうか。

答 町長 NTTドコモのフォーマサービスの提供設備が、福原平間から中山に掛けての山頂に、来年か再来年に実施計画中で、また勝浦町との町界付近で、電波の改善対策をする方向で調査検討中であるので、これにひきかけて、未受発信ができない地域を整備していきたいと考えている。



NPO法人発起人会

たのではないかと。県と交渉し説明する。

健祥会ぐるみ選挙

問 七月の参院選でデイサービス利用者、帰途に職員達が、組織内候補者の名前を書いたメモを持たせ、役場に運び期日前投票させた選挙違反ではないか。投票に連れていくのもデイサービス業務か。

答 町長 公職選挙法違反かどうかは警察に調査権がある。選挙は国民の責務であり、外出支援であって、デイサービス業務だ。



一般質問

一般質問



美馬保明 議員

風力発電について

問 電力エネルギーの使用量は増大こそすれ減少することは考えられない。以前に大川原高原に設置する意向の話があったが、美杉峠までの杉地線の奥地で送電線の鉄塔付近に適地がある。どちらがベターであるか検討してみてはどうか。

答 町長 杉地地域においては現在のところ風況調査が行われていない。資材の運搬道路の状況、大型資材の搬入が可能であるかどうか。大川原高原については、㈱エーラスエナジージャパン並びに㈱四電エンジニアリングが既に計画を進め用地交渉、手続等の準備を進めている段階で比較検討はできない。

地域行政の実態について



瀬戸町風力発電風景

携帯電話の届かない地域の解消について

問 杉地地域は全然届かない。いし隣町の相生町も届かない。平間地区も届きにくい。相生町と連携して中継所を設置する考えはないか。

答 町長 NTTドコモに要望したけれども、現在は主力サービス（画像転送などの速度が速くできるサービス）のフォーマサービスへの移行中ですので、格差は現在の現在の事業については実施できない。次の主力サービスであるフォーマサービスで一緒に杉地地区がエリアに入らないか要望していきたい。

月ヶ谷温泉の宿泊施設の落成について

問 休業中であつた月ヶ谷温泉も、二月から営業を再開し二月十三日には落成式を行うということであるが落成式はどのような規模で行うか。

答 町長 内容は施設見学、落成式の式典、兵庫県の夢前町より和太鼓の演奏、

地元の協力によるもち投げ等、祝宴等については財政事情のことから会費制で交流センターの二階で現在一〇〇名程度で検討している。

温泉周辺の環境設備について

問 オープンに向けて周辺でも整理整頓していかねばならないことがあると思うがどのように考えているか。

答 町長 亀橋周辺あたりについて非常に汚い。キャンプ場の洪水で流れた所とか亀橋の赤さびの修繕、入口の月ヶ谷保養センターの看板も新しくしたい。

問 老人ホームの今後の運営方法について。

答 町長 養護老人ホームは来年度から交付金ということで補助金はなくなる。十七年度国に対して要望しているがとれば、民設民営に移動していただく。これが委託できなかった場合は現施設でやっていかなければならない。



藤田欣宏 議員

改修工事に伴う営業閉鎖について

問 十二月、一月については、忘年会又新年会として同窓会等の大型需要があるのに、なぜ、一月二月の閑散期にしまったのか。

答 町長 当初は一月から三月の閑散期にと考えていたが、宿泊施設の閉鎖、

つきがたに交流センターについて

食中毒、度重なる台風の襲来により、利用客が急減し、営業が難しくなり、総合的に考え、一日も早い営業を目指し、宿泊棟の完成と交流センター部門の改修工事の完成を同時になるようにした。

五十周年記念行事について

問 上勝町は十七年七月二十日で五十周年になるがどうするのか？

答 町長 財政は厳しいが記念式典等を行い、今後上勝町のあり方等模索すべく、各種団体、各課長とも相談し、町民みんなが意思結集し、明るい展望が開けるよう努力したい。

過疎地域自立促進計画について

問 農林業等の産業育成方法として、高齢化率四十五％からの脱出方法はどのように考えているのか。

答 町長 正直いって非常に難しい問題である。人口の流失、農林業の衰退、職業の選択の自由等やむを得ないかと思っています。農林業が衰退すると、国土も荒廃するのでいっきゅう運動会の知恵をかりたり、生産部会の意見を聞いたりし、方向性を見い出していきたい。

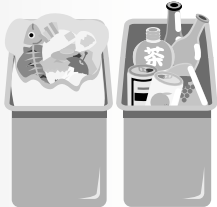
国の政策の中で中山間地域直接支払制度は重要と思っっている。国土を荒廃させない為にも最善の努力をしたい。

ごみゼロ・ウェイストと環境ISO14001について

問 ゼロウェイスト宣言をした上勝町が、環境ISO14001を取得しないのか。

答 町長 市町村においては、特段のメリットがないことと多額の費用が必要

であるのと財政が厳しい時なので、あえて環境ISO14001を取得しなくても、ゼロウェイストを推進するのも重要な選択の一つであると考えている。



日比ヶ谷ゴミステーション

一般質問

一般質問



議員 義明 阪松

問

自然災害と人工的災害の対応。

答

町長 地震については、あるいは予期せぬ台風よりも集中豪雨台風の場合はあらかじめ避難態勢とかできるが急に何の予告もなしに降り出すということがあり、危機管理体制というのが非常に重要です。住民に浸透していなければ地震とか集中豪雨のときに町からの連絡とかまっていればともでないが間にあわないことです。本町に備えが大切です。本町においては自主防災を進めており、震災を念頭に置いた、地域防災計画の見直しを行っており、万一災害がおこったときの対応、町職員あるいは消防の体制これらについて地域防災計画を具体的に進める。この危機管理の中で、独居老

危機管理について

人七十才以上の方が十二月一日現在の人数で九十五人です。身体障害者は十六年三月現在二百四十一人です。次に人災についてですが、学校については教育委員会で対応しております。学校では現在、地震対策、火災対策、不審者の侵入対策等についてマニユアルを策定してそれに基づき訓練も行っている。小松島補導センターから小松島勝浦郡また県内での不審者情報をもとに学校、教育委員会にも連絡をいただきその情報を共有して対応しているが、保護者と地域住民の皆様の協力をえて、子供の連れさり等を防いでいきたいと考えております。

問

答

徳島市へ編入合併の申し込みをしてはどうか。町長 徳島市長が会見で中核都市勉強会呼び

かけということですが、これについて中核都市のメリット、デメリットとか勉強しなければならぬということもございいます。私も積極的に勉強していきたいと考えており、将来上勝町としてどのような方向をとるか十分勉強した上で住民ともその情報も提供していきたい。しかしながら今徳島市へ編入を申し込むという考えはもっておりません。

問

町営バス横瀬西の案内板について。教育委員会事務局長

答

代替バス、町営バスの横瀬西まで乗り入れの検討時点で案内板の設置場所ですが徳バスの回転場があり、徳バスの回転場内に設置できればということで徳バスと協議をさせてもらいましたが、横瀬西での徳バスの案内板に設置について認めると、横瀬西での接続を認めたことになるので徳バスとしては横瀬西での停留所を置くことに同意できないと断られました。

苦肉の策としてN T Tの電柱に広告看板ということでN T Tの許可をえて現在の立寄所として標示板を設置している。徳バスに再度協議し時刻表、ただでも徳バスの時刻表に並べて張らせてくれないかと協議しました。結果は時刻表は結構ですということで現在、徳バスの時刻表と並べて設置しております。

徳島駅前の表示については検討していく。



町営バス案内板（横瀬西）

町道の管理について

問

本年の台風において、町道、林道の排水路がありながら、充分その機能を果たさなかった所があるが、今後どのような維持管理方法が考えられるか。

答

建設課長 町道は一六五路線、延長一六七kmである。現在一人の職員が対応している。地元の方に維持管理して頂いている所もある。今後とも地元で、できる範囲の管理体制をお願いしたい。

答

産業課長 林道は三六路線、延長一〇一km、基本的に維持管理は地元管理である。重機の必要な場合は予算の範囲内で行う。今後町道に編入可能な所は考えていきたい。

七つのプロジェクトの結果は

議員 章 美木

問

七つのプロジェクトの取り組みがなされてきたが、その結果はどうなっているか。

答

町長 プロジェクトは上勝町を活性化するために立ちあげた。ごみのゼロウェイスト、木質バイオマスについては、プロジェクトの成果であると思う。若者定住について、傍示複合住宅の建設は適当であった。現在町内公営住宅の入居者は百二十六人で内子供が三十六人である。行政評価については、評価基準が明確にできなかった点がある。行政改革においては、二十一世紀の行政改革大綱を作成した。森林農地適正管理の体制作りは充分でなく再検討すべきと思う。林業、農業改良普及員の本町はりつけについては、国、県との考え方



高鉾忠霊塔から高鉾山を望む
この町がいつまでも発展するように

平成十七年度の予算編成について

問

答

三位一体の改革がすすむ中で、当面単独とのかねあいから、どのような点に留意しながら編成されるか。町長 少子高齢化の伸展と国の行政改革から、本町の財源が確保できるか、住民には合併せずにやっていくのかとの心配があると思う。合併については当面単独という方向づけをしているが引き続き研究をしていく。近隣町村とは友好関係を保ち又、J A東とくしま、森林組合とも情報交換をしながら友好な対応をしていきたい。風力発電所計画については、本町の財源としては、固定資産税がある以外あまりメリットがないがデメリットにはならな



町道元山槻地線の排水路

一般質問

自然生態系農業振興について

期 日 十月二十七日
場 所 宮崎県綾町
参加者 多田議長・他議員六名
議会議務局長・助役・産業課長

綾町は宮崎県の中央部にあり宮崎市から西西北方二・三kmのところにあります。

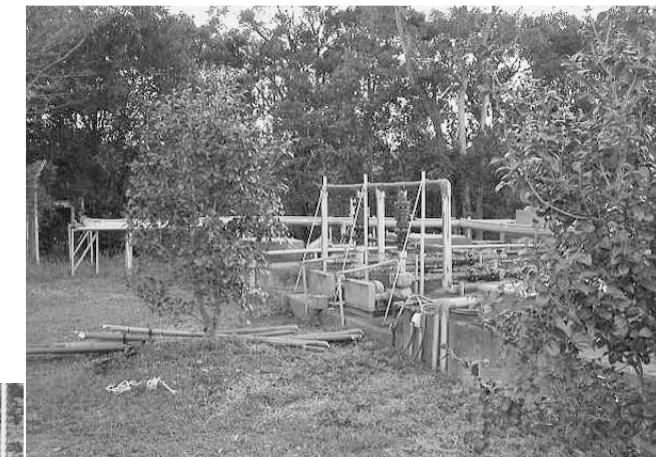
自然生態系農業に取り組み

間百万人が訪れ、橋の建設費が一年で取り返せた。橋の長さ二五〇メートル、幅一・二メートル、高さ一四・二メートル。昭和五十九年三月完成。
(阪松)

昭和六十二年に全国初の「自然生態系農業の推進に関する条例」を制定しており、緑ゆたかな自然に囲まれ母なる大地を舞台に二十一世紀を展望した農業農村づくりを目指し活動していた。実践拠点として各自治公民館の生産者と地域リーダーである支部長、婦人部で構成する「実践支部」と農協の「生産組織」からなり、生産物の認証基準を設けて生産物をランク付けし認証シールを交付する。常緑照葉樹林（二、四五五ha）。国内最大規模の照葉樹林があり昭和五十七年五月に「九州中央山地国定公園」として指定されています。この綾川溪谷に世界一規模の歩道架橋があり綾の照葉大吊橋です。年



綾町役場にて



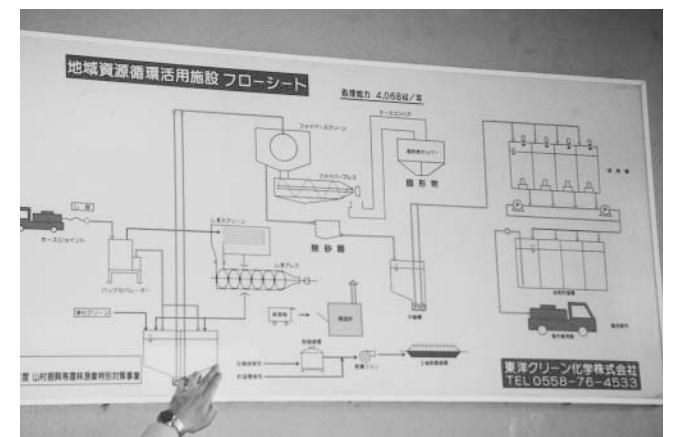
人糞が液肥に



綾の照葉大吊橋



地域資源循環活用施設



多品目生産による農業振興について

期 日 十月二十八日
場 所 福岡県北野町
参加者 多田議長・他議員六名
議会議務局長・助役・産業課長



コスモファームのトマトハウスで説明をうける

筑後川が町南部を東西に流れ標高十m内外の平坦地で田一、〇二六ha、畑七四ha農家九〇八戸平均一・二aである。米麦五〇％、米十野菜四六％。野菜については食生活の変化により都市近郊軟弱野菜産地が生れた。昭和五十三年国の野菜指定産地の指定に三井冬春レタスを受け野菜集荷場を建設し、レタスを始め周年野菜等多品目野菜の振興を図る。又法人組織五人事業費二億円一・三haの温室が完成した。その後施設園芸農家が育成されている。

六十一年には野菜集荷場一、四九四㎡事業費一・一億円を建設、現在手狭になっているので増設を検討中、平成三年四月北野町、大刀洗町、小郡市の一市二町が合併しJ A みい農協となる。

「共販体制の確立と価格安定制度」

一〇〇種類を超える野菜の生産、

現在二四部会（三五〇人）と代表者会ができ、一〇〇種類を超える野菜を九州はもとより関西、関東方面の市場へ出荷している。又一部大都市へのフライト出荷も行い、農協販売額三五億円を超えている。

「多品目生産販売システムの確立」

野菜販売アイテム数一二〇を全国六〇市場に有利販売するための相対取引（四五％）契約栽培のシステムを構築している。販売の基本として、出荷計画に基づく作付、生産調整、出荷期、量の予測、一週間の出荷予測を行っている。又量販店での販売による消費宣伝、大手百貨店にJ A みい農協野菜コーナーを設置販売している。

「商品価値を高めるための工夫」

「何でも揃う」「日需給園」生鮮品に求められる鮮度と消費者ニーズに合致したものととして市場から歓迎される反面、きめこまかい出荷計画の立案、統一した品質規格管理がより重要となる。各生産者に保冷库の設置を義務付けて、収穫から荷作りまでの鮮度保持を徹底している。さらに必要な物は集荷場の保冷库を利用している。高温期の輸送は保冷库を用いて鮮度保持に努めている。施設農家数と面積は平成十二年ビニールハウス、



ベビーリーフ（軟弱野菜）の荷作り

一三七戸、六、二〇五a、ガラスハウス、二七戸、五五三a、販売金額別農家数三〇〇〜五〇〇万円まで六九戸、七〇〇万円まで三二戸、一〇〇〇万円まで四三戸、一五〇〇万円まで三二戸、二〇〇〇万円まで二七戸、三〇〇〇万円まで三六戸、五〇〇〇万円まで二九戸、五〇〇〇万円以上十戸（農林業センサスによる）又法人コスモファームはハウストマトの栽培を行っているが、北海道へ出張栽培も行っている（五〜十月出荷用）。四ha、五十八ハウス、売上げ四億円とのことであった。
(高橋)

九州・福岡からみた上勝の農産物等の現状 また今後のあり方について

期 日 十月二十九日
場 所 福岡県福岡市
参加者 多田議長・他議員六名
議会事務局長・助役・産業課長

第三日、十月二十九日長浜食品（株）社長松島邦昌氏（上勝町生実出身）の案内で古賀市小田山にある水産物加工と保冷剤を製造している西日本アイスの工場を視察した。小袋と五〇〇g位の大袋をつくっていた。保冷剤も今では一般化している。いろいろな食品、宅急便などに



グリーズやま幸（大根でケン作り）

使われていますが、六年前にいち早く会社を設立し順調に売り上げを伸ばしているとのことでした。水産物の加工は主に海藻類の袋詰で当日はもずくの加工を行っていました。

その後グリーズやま幸、カット野菜の工場を視察した。

旧姓小島尚子（松島社長の近所出身）さんが御主人と二十年前より経営されている会社で当日は大根、人参、キャベツなどを加工していた。大根を日量六トン位千切りしている。一kg袋に入れて出荷する。年末は大変忙しい。大根は近くの農家に栽培をお願いして生産してもらっている。今年は台風で野菜が間に合わず、使いたくはないのだが中国から入れているとのこと。関連会社四社あるがこの会社の業績が一番よいとのこと話した。予定では本社の工場を見ることができましたが時間がなくなり、福岡大同青果常務藤野氏、

長浜食品商品部長真弓氏の待つ会場へ急ぐことになった。

全国九十八市場中七、八番目の売上高の福岡大同青果の約1/4の品物を長浜食品があつた。

福岡は九州だけでなくアジアの玄関に当る外国に向かって開けている。

いろいろについては、景気は今の状態が当分続くだろう。外食産業は変わらないが日本料理はきびしいのではないかと、急激な伸びは期待できない。上勝町の取り組みについて、すばらしいとほめていただく。ゆずこしよう、ゆずの種まくらなどおもしろいのではないかと。農産物の販路は広がって



西日本アイス工場にて（中央が松島邦昌社長）

いるように感じた。
前日の夕食をお世話になった、たつみ寿司社長松島民亘氏（松島邦昌氏次弟）のお寿司に新しい食文化を見たような気がした。民亘氏が新しく造り出した創作寿司は、外国人にも好評を得てテレビ、雑誌などのマスコミにも取り上げられ又学校の講師、各地の講演等で忙しく活躍されているとのことでした。松島邦昌氏には大変お世話になった福岡の研修でした。（多田）

議会の動き



10月

- 1日 新町営バス出発式
- 4日 議会広報調査特別委員会
- 7日 議会町内産業等視察
- 10日 彩マラソン大会
- 12日 議会広報調査特別委員会
- 15日 議会全員協議会
勝名地区町村議会議長会臨時総会（徳島市）
- 18日 議会広報調査特別委員会
- 20日 第6回議会臨時会
議会全員協議会
- 21日 議会広報調査特別委員会
- 24日 全国育樹祭（神山町）
- 25日 例月出納検査・定例監査
和歌山県龍神村視察来庁
- 27日～29日 議会議員行政調査視察（宮崎県綾町他）

11月

- 4日 四国地区町村議会議長会研修会（高松市他）
- 11日 北海道白老町議会視察来庁
- 12日 議会全員協議会
- 16日 長野県原村他視察来庁
- 17～19日 第48回町村議会議長全国大会（東京都他）
小松島市外三町村衛生組合議会（小松島市）
- 22日 例月出納検査・定例監査
- 24日 人権・同和・環境対策推進議員連絡協議会と
県選出国会議員、市町村長、議長との対話会（徳島市）
- 25日 過疎町村議会議長研修会（脇町）
- 26日 議会全員協議会
- 29日

12月

- 2日 徳島県町村議会議長会理事会（徳島市）
- 3日 議会運営委員会
- 5日 ゼロ・ウェイストシンポジウム
- 7日 議会全員協議会
勝浦高校教育振興会総会（勝浦町）
- 10日 議会定例会第1日
議会運営委員会
- 14日 議会全員協議会
議会広報調査特別委員会
総務常任委員会
- 17日 議会定例会第2日
議会全員協議会
議会議員現地調査
- 18日 彩保育園クリスマス発表会
- 19日 徳島駅伝勝浦郡選手結団式（勝浦町）
- 21日 議会定例会第3日
総務常任委員会
産業建設常任委員会
- 24日 例月出納検査・定例監査



宿泊棟屋上



町村議会議長全国大会（東京）



駅伝結団式



広報編集

写真で紹介 まちのようす



地域の安全を守る会（作業前の挨拶）



竣工 葛又農道S W橋付近



復旧前のキャンプ場



いっきゅう地区給水タンク（影地区）



桃の花橋掛替工事（傍示）

編集後記

如月となり暦の上では春を迎えました。昨年は大変な自然災害の年でありましたが町民皆様には良いお年を迎えられたと思っています。

編集委員として早くも一年が過ぎ、編集校正に追われることが毎回でした。平成十七年度国の予算が八十四兆円と発表されました。地方交付税が前年度より〇・一％の上積がありますが、本町にとってもきびしい財政運営が続きます。交流拠点、月ヶ谷温泉も今月より、リニューアルオープンし、名実ともに発展することを願っております。

本町もこれから予算編成、三月議会と続きます。町民の皆様の声がとくように努力したいと思っています。